

# 旧余部橋梁撤去部材を用いた 調査研究に関するシンポジウム

## 開催趣旨

旧余部橋梁は鋼鉄道橋の維持管理における象徴的な構造物として知られていましたが、強風時の列車運行の定時性を確保するため、地元の協力を得て2010年8月に新橋に架け替えられました。

架け替えを機に、撤去された橋梁部材を用いた調査研究(研究代表者 大阪大学名誉教授・大阪工業大学特任教授・松井繁之)を広い研究機関との連携により精力的に進め、このたび、腐食、疲労、接合等に関する興味深い研究成果が得られました。そこで、これらの成果とともに、余部橋梁における維持管理の歴史を総括し、今後の鋼構造物の維持管理に有益な情報として公開すべく、シンポジウムを開催することにいたしました。多数の方々のご参加をお待ちしております。

【主催】災害科学研究所 【後援】土木学会関西支部, JR西日本

開催日時 平成24年11月7日(水) 13:00~17:30

開催場所 大阪工業大学 大阪センター(大阪市北区梅田3-4-5 毎日インテシオ3F)

## シンポジウム内容

開会挨拶

松井繁之(大阪工業大学 教授)

発表 余部橋梁撤去材を用いた腐食、疲労、接合強度等に関する研究

「余部橋りょうの橋脚部位における腐食状態調査と局所腐食箇所分析」

「余部橋りょうにおけるリベット、高力ボルトの腐食状況と現有性能」

「リベット継手構造の残存強度実験」

「桁端ウェブの腐食表面の特徴と残存強度解析」

「余部橋りょう橋脚の残存水平耐力に関する解析的検討」

「余部橋りょう撤去桁の疲労実験」

坂本 達朗(鉄道総研)

中山 太士(JR西日本)

藤井 堅(広島大学 教授)

藤井 堅(広島大学 教授)

杉浦 邦征(京都大学 教授)

坂野 昌弘(関西大学 教授)

総括講演 旧余部橋梁の建設と維持管理

松田好史(JR西日本 技術理事)

※ 本シンポジウムは土木学会継続教育(CPD)プログラム認定を受けています

定員 200名 定員になり次第、締め切ります

参加費 無料

参加申し込み方法 次のいずれかの方法でお申し込みください。

FAXによる方法 : 添付の参加申込書に必要事項を記入の上、災害科学研究所あて(FAX 06-6202-5603)へご送信ください

e-mailによる方法: 件名に「旧余部シンポジウム参加申し込み」と記載し、本文に所属、氏名、勤務先または自宅の住所、電話番号、を記載の上、[saiken@f2.dion.ne.jp](mailto:saiken@f2.dion.ne.jp) へご送信ください

問い合わせ先

〒541-0043 大阪市中央区高麗橋4丁目5-13(淀屋橋サテライトビル8階)

一般財団法人 災害科学研究所 Tel:06-6202-5602